

謹んで新年のお慶びを申し上げます



奥尻町長
新村 卓実

町民の皆様

新年あけまして

おめでとーございます

令和5年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

町民の皆さまには、健やかに新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

また、平素から町政全般にわたり、深いご理解とご協力を賜り、衷心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、2月には突如としてロシアがウクライナへ本格的な軍事進攻を開始し、戦闘は、今でも続いている状況にあります。このため、世界各国で、化石燃料や小麦などの供給不足が生じ、ガソリンや食料品などの値上がりが続いている状況にあり、国内においても、円安が続く、物価高が進行しております。また、依然として「新型コロナウイルス感染症」が終息していない現状にあります。町民の皆さまには、今後、冬の感染拡大に向けて、「三密回避」人と

の距離確保「マスク着用」「手指消毒」「屋内での換気」の基本的な感染防止行動の徹底を引き続きお願いするものであります。

政界においては、7月に参議院議員通常選挙の選挙期間中に元内閣総理大臣の安倍晋三氏が選挙演説中に銃撃され死亡するという痛ましい事件などがありました。

一方町内においては、コロナ禍の影響は、幾分緩和されましたが、依然として、各種イベントの中止、また、ロシアによるウクライナ侵攻と円安により、エネルギー・食料品価格の高騰などが町内経済への大きなリスク要因となりました。また、水産業においては、期待されておりましたイカ漁が今年も島内周辺海域で漁場が形成されず、厳しい漁模様となり、ホッケ漁においても、時化が続く、期待していた魚獲量を確保できませんでした。畜産業においても、大規模畜産法人が倒産したことにより、素牛の販売単価が低迷した年でありました。

このような中で、本町にありましてうれしい出来事がありました。一つ目は、10月に行われました2022年プロ野球ドラフト会議において、本町出身の坂本拓己君が東京ヤクルトスワローズに4位指名され、12月には、入団発表が行われたところであります。坂本君は、オリックスブルーウェーブなどで活躍した佐藤義則氏以来46年振りとなる本

町からのプロ野球選手の誕生であります。坂本君には、健康に気を付けて、より高みを目指し、日本を代表する選手になってほしいと願っているところであります。

次に、環境省が、政府目標の2050年に先駆けて30年度までに温室効果ガス排出の実質ゼロを目指す「脱炭素先行地域」指定についてであります。本町では、町内の既存の水力発電と地熱・太陽光・木質バイオマス等の多様な再生資源を活用して島全域の脱炭素化を進めるとともに、人口や公共施設等が集中する島内2エリアに自営線によるサブネットワークを構築して、離島におけるエネルギーコストの低減と電力供給の安定化を図り、町有バスや公用車のEV化、EV自動運転デマンドバスやグリーンスローモビリティを導入し、高齢者をはじめとする住民の利便性を向上し、脱炭素化の取組を通じて「サステイナブル・アイランド奥尻」を目指し、本地域の指定に向けて申請していたところ、11月1日付けで環境省より、「脱炭素先行地域」として選定された旨の通知を受けたところであります。今後は、再生可能エネルギーの導入などによって、家庭やオフィス、公共施設などの電力消費に伴う二酸化炭素排出ゼロを目指すとともに、

昨年の第4回定例町議会において、「ゼロカーボンシティ」を宣言したところであります。



副町長	田中 敦詞
総務課長(兼) 会計管理者	安藤 寛
地域政策課長	杉山 静治
税務国保課長	工藤 譲
建設水道課長	小柳 透
水産農林課長	横田 稔
保健福祉課長	青木 陽一
企業管理課長	満島 章
発電課長	小黒 孝昭
青苗支所長(兼) 環境センター所長	櫻花 幸久
空港管理事務所長	深瀬 洋治
他職員	一同

次に、町政を進めていくうえで、重要な法案であります。離島振興法についてであります。現行法は、本年3月末日期限が切れる予定でありましたが、昨年11月に衆参両院の本会議において、全会一致で改正離島振興法が成立しました。今回の改正では、島外の児童生徒を受け入れる「離島留学」を配慮規定に明記し、寄宿舎の環境整備などで支援拡充が見込まれます。また、都道府県による離島市町村への支援の努力義務も新設され、高齢化が進む「小規模離島」について日常生活の必要な環境維持が図られるよう配慮する規定も新設されました。さらに、「高度情報通信ネットワークの充実」を特別の配慮にかさ上げし、医師の確保や遠隔医療システムによって医療体制を充実させるほか、オンライン授業やテレワークを念頭に、通信インフラの維持管理などに配慮することも掲げられました。今後本法を活用しながら、町政を進めてまいります。

次に、今年の町政についてあります。

今年、平成5年の北海道南西沖地震から30年目を迎える節目の年であります。この節目の年に、いよいよ町民が長く待ち望んでおりました「奥尻町総合庁舎」が完成します。あの大きな災害から30年がたち、年号も平成から令和へと新しい時代へと刻々と変化してまいりました。このよう

な中で、新庁舎は、奥尻町の防災拠点の役割を果たし、「強く・柔らかく・便利で賢い庁舎」として、また、本町のシンボルとしての竣工を祈っているとあります。

さらに、新庁舎完成を見据え4月1日に機構改革を予定しています。

次に、基幹産業の漁業についてであります。

新たな魚類養殖事業として、一昨年に始めたサーモン養殖については、昨年11月と12月の2回に分けて1キロの幼魚2500尾と500グラムの幼魚千尾を奥尻港湾に設置した2基の生簀に搬入し、大きき別の幼魚の成長試験を実施しながら、今年6月の1尾3キロの水揚げを目指し、試験養殖をしています。

一方、農業については、ふるさと納税の返礼品として人気が高い「奥尻ワイン」につきましては、昨年の収穫量が45トンと好調だったことから、なお一層のPRを行うとともに、ほとんどが一等米である「奥尻米」についても、販売促進を行い、自主財源の確保を図ってまいります。

次に観光についてであります。

町内の宿泊業においては、複数の公共工事関係者などの増加により、稼働率が高い状況になっております。このため、宿泊場所の確保がなかなか、厳しい状況にあることから、今年の第10回「奥尻ムーンライトマラソン」大会を中

止としたところがあります。今後は、アフターコロナを見据え、本大会のあり方を検討してまいります。

次に、奥尻高校についてあります。奥尻高校の島留学生については、定員の20名近くが毎年入学している状況にあり、今後、寄宿舎が不足することが予測されることから、安定的な受け入れ体制を整備するため、松風寮の増築工事を予定しているところがあります。

次に、奥尻町の貴重な文化財である勾玉類ですが、現在専門家による「勾玉総括プロジェクト」において調査を進めております。今後報告書をまとめあげ、学術的評価を与えることで、その歴史的価値をさらに高め、将来の文化財指定への足掛かりとなるよう期待されるところであります。

次に道道奥尻島線の整備についてであります。函館建設管理部では、奥尻地区の信号交差点からフェリーターミナルの区間において、5年度中に各種測量等の調査を実施し、同区間の改良について整備を進めていく方針であります。

次に、令和3年度財政状況についてであります。実質公債比率は、9・8%（前年10・3%）、将来負担比率は、9・3%（前年22・3%）と、早期健全化の目安となる25%、350%をそれぞれ下回っており、良好な財政状況を維持しております。しかし、

町の預金となります。財政調整基金積立金は、9億4千万円と10億円弱の積立基金となっており、脆弱な財政規模となっております。また、奥尻町総合庁舎建設等に係る基金としては、2億5千2百万円を公共施設整備基金として積み立てておりますが、昨今の骨材等の物価高騰に伴い、施設整備基金が高騰することが予想されます。さらに、国保病院など老朽化している公共施設が多く、更新や大規模改修を実施しなければならぬ現状にあることから、今後も財政規模にあった新年度予算の計画を立てていきたいと思っております。

結びに、令和5年は、兎年（うさぎねん）であります。兎年は、その跳ぶ姿から「飛躍」「向上」する年と言われております。今年、は、コロナ禍が終息に向かい、本町がコロナ禍から新たに飛躍する年となりますとともに、町民の皆様にとりまして、喜びと幸せに満ち溢れた年となります。新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年 元旦



奥尻町国民健康保険病院

- 院長 泉里豪
- 副院長 佐々木盛
- 歯科医長 渡邊一史
- 薬局長 渡邊久代
- 看護師長 阿部千賀子
- 事務局長 大須田直哉
- 他職員一同

奥尻町選挙管理委員会

- 委員長 松川眞智雄
- 他職員一同
- 書記長 安藤寛

奥尻町監査委員

- 代表監査 松川博俊
- 他職員一同
- 事務局長 阿部元大

奥尻町農業委員会

- 会長 海老原浩
- 他職員一同
- 事務局長 横田稔

奥尻町教育委員会

- 教育委員 上野史朗
- (教育長職務代理者)
- 他職員一同
- 事務局長 新谷順二
- 他職員一同
- 事務局長 山崎和範



奥尻町議会議長 工藤 勇

町民一人一人が明るい笑顔で 活気に満ちた町づくりを目指して

町民の皆様

新年あけまして

おめでとうございます

令和5年の年頭にあたり

謹んで新年の

ご挨拶を申し上げます

昨年は新型コロナウイルス感染症も一時収まりつつあり久しぶりに町民マラソン大会が開催されたり、各学校や幼稚園の運動会や体育祭が開催されるなど、普通の生活が送られる日が近づいてきたかと喜んだのもつかの間、11月中旬には、全道で1万人を超える新規感染者が出るなどまたしても新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した年となりました。早くマスクなしで暮らせ、大声で笑える日が来てほしいと願うばかりです。漁業においては、イカ漁の不漁が数年続き、観光におい

では、工事関係者による長期滞在中観光客が宿泊できないことから日帰りツアーも実施されたが入り込み数が増えることはなく、活気のあまる町とはなりません。明るい話題としては、本町出身の坂本拓己君が東京ヤクルトスワローズに4位指名され入団したことではないでしょうか。島の子どもたちだけでなく、町民にとっても夢と希望と感動を与えてくれるような活躍を期待します。町民みんな坂本拓己君の応援をしましょう。

昨年秋から着工した奥尻町役場新庁舎建設工事等による人流、ウニやアワビ、岩ガキ、ワインや地酒「奥尻」を求めて多くの観光客で賑わい、イカ漁やホッケ漁も大漁で「夢の島」、「宝の島」となる一年でありますよう期待しています。新しい年を迎え、町民一人一人が明るい笑顔で活気に満ちた町になるよう頑張りましょう。



令和5年 元旦

脱炭素先行地域に選定された事への対応や山積する課題解決のため、今年も、国・道、関係機関との連携を強化し、活発な議会活動をめざします。また、議会改革の一環とし議会の傍聴者を増やす運動に力を入れています。ぜひ議会の傍聴をお願いいたします。町民の皆様にとりまして、より良い一年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

奥尻町議会

副議長・総務産業常任委員

齋藤 伸彦

総務産業常任委員長・議会運営委員・広報編集特別委員

水野 諭

議会運営委員長・総務産業常任委員

寅尾 裕志

議会運営副委員長・総務産業常任委員・議会選出監査委員・檜山広域行政組合議会議員

青坂 賢二

広報編集特別委員長・総務産業常任委員・檜山広域行政組合議会議員

制野 征男

総務産業常任委員

麓 敏也

総務産業常任副委員長・広報編集特別副委員長

松塚 政継

事務局長 阿部 元大

他職員 一同